

社会福祉法人京都ライフサポート協会
横手通り 43 番地「庵」

分棟型小規模個室ユニットと職住分離型障害者支援施設



敷地中程から正面玄関方向を見た「通り庭」

運営概要

所在地：京都府木津川市

開設年：2002 年

定員：40 名

建築概要

建設年：2001 年

延床面積：1,648 m²（7 棟合計）

入居者 1 人当たり延床面積：41.2 m²/人

入居者 1 人当たり居室面積：約 10 m²/人

構造・階数：RC 造 2 階建

施設整備費：約 4 億 6,327 万円

設備備品整備費：約 1,500 万円

入居者の属性

現員：39 名

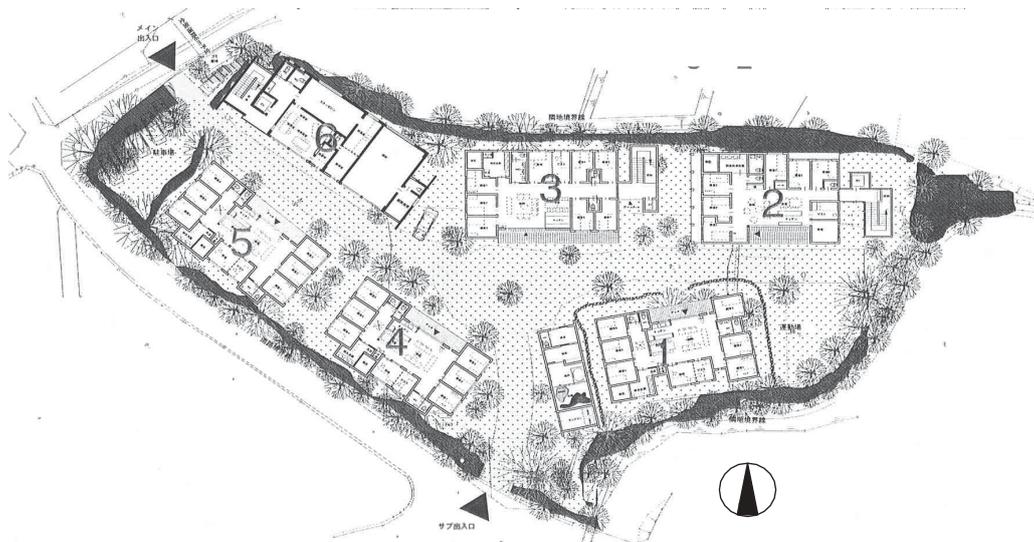
年齢：32～75 歳（平均：全体 49.6 歳，男性 49.1 歳，女性 50.9 歳）

障害特性：

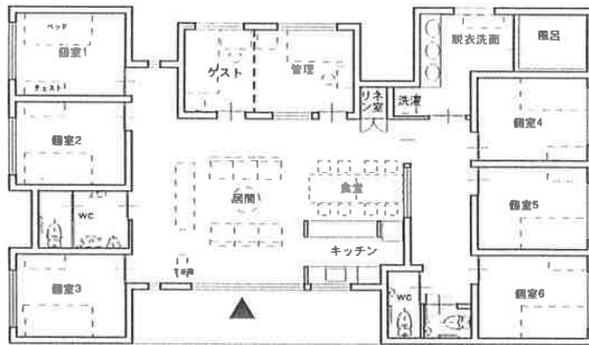
〔行動関連項目得点（強度行動障害スコア）20 点以上：64%，15～19 点：33%，10～14 点：3%〕

障害支援区分：区分 6（全員）

短期入所：8 床



配置図 (1/800)



ユニット (タイプ1) 平面図 (1/200)

開設の経緯

開設当時、入所施設は1つの建物で24時間、365日過ごすことが当たり前であったが、入居者の生活の質を最大限高めるため、施設運営のすべてを「ありのままに、当たり前」という視点で捉え直し、従来型とは全く異なる施設を作り上げた。

設計のコンセプト

完全分棟形式5～6人単位の個室ユニット 入所施設における「小舎制ユニットケア」を実現すべく、小規模なユニットを完全分棟型にすることで、入所者の生活単位を小規模化し、落ち着きのある住まいを創出した。

デイケアを分離し、場所も住まいも分ける 日中は送迎車での日中活動を行う事業所へ向かい、夕方になるとまた送迎車で帰宅する。生活の基本的なリズムをつくり、「普通の暮らし」を実現する。

特に効果的だった建築的工夫

- **5～6人単位のユニット** 施設を5～6人単位のユニットに分け、分棟型とすることで、入所者の生活空間グループホーム的な小規模なものとなり、生活に落ち着きが生じている。5～6名は、支援者1名で支援可能なぎりぎりの最大限の人数であると考えている。
- **強度行動障害のある入所者に対応した「カウンター」** どうしても他害傾向のある入所者のために、ユニットの一部を改装して「カウンター」を設け、その入所者はカウンターの中で生活することとした。当該入所者は落ち着いた生活ができるようになったとともに、カウンターを介してリビングの雰囲気も感じることができる。
- **強度行動障害対応ユニットの壁改修** 強度行動障害のある入居者が暮らすユニットにおいて、壁の破損が発生するため、壁の素材をタイル状のものに換え、破損しても一部のみを取り替えばすむように変更した。
- **見守りシステムの導入** 夜間の入居者の見守りシステムとして、センサーをベッドのマットレスの下に敷くタイプのシステム「眠りSCAN」を導入した。個室最大の問題は夜間の生存確認。眠りSCANはそれが常にできる。また睡眠時間、起きた時間、心拍を集計できる。データは精神科の医師に伝え、服薬の効果や減薬の参考にも使われている。眠りSCANは職員の介助負担の軽減と長期的な健康管理（薬の調整など）の双方にメリットがあった。



ユニット中央に設けられたリビングダイニング



強度行動障害のある入所者に対応した「カウンター」



強度行動障害対応ユニットの壁改修



見守りシステム「眠りSCAN」（右下のモニター）



2階に設けられた居室ユニット。掃き出し窓からの採光で、照明をつけなくても日中は非常に明るい。



利用者が乗ってしまい危険なため、カバーを撤去した換気扇。



ショートステイ利用者用の居室のひとつ。壁をクッション材としている。



日中活動の場「あんず デイセンター」。職員の DIY による環境の構造化が行われている。

建築的工夫に対する考え方

- **行動障害の改善について** 行動障害の改善は日中活動の充実に尽きる。エネルギー的にも精神的にも満たされることがなければ、閉鎖空間では改善できない。日中活動の場をどのように確保するのが今後の（支援施設全体の）大きな課題。予期せずコロナのことがあって、終日「庵」で過ごしていた期間もあり、その際は（居室に閉じこもってばかりいるため）拘禁症状が発生する方もいた。デイを分けることは非常に有意義だと改めて感じた。
- **防音について** 居室の壁はホテル仕様になっていて天井まで壁（騒音が隣の部屋に響かない）にして遮音性の高い建物にしておいたのがよかった。

（出典）

厚生労働省 令和 3 年度障害者政策総合研究事業「障害特性に対応した住居の構造等の類型化のための調査研究」（研究代表者 東京大学工学系研究科建築学専攻准教授松田雄二）（事例紹介資料一部抜粋）In press